

日本初の 国立自然史博物館を沖縄に！

県では、国立自然史博物館を沖縄に設立・誘致するため、国への働きかけやシンポジウムなどの取り組みを行っています。

自然史とは

「自然史」とは何か、「こ」存じでしようか？自然史(Natural History)「博物学」ともいう。とは、生物や海、山、土、岩など、私たちを取り囲む、全てのものの姿とその歴史のことです。自然史研究とは、自然そのものを観察し、分類し、解き明かしていく、基礎研究の学問です。

自然史博物館とは

自然史博物館は、自然史に特化した博物館で、①自然史標本の収集・整理・保管、②自然史標本に基づく自然史科学の研究、③研究成果を活用した展示・教育普及という、3つの役割を持つ施設です。世界には、大英自然史博物館、フランス国立自然史博物館、アメリカ

国立自然史博物館など膨大な標本数を保有する自然史博物館があります。一方で、東アジア・東南アジア地域は、多様な自然に恵まれながら、欧米と並ぶ国立の自然史博物館がありません。

国立自然史博物館って？

学界では、60年以上前から、国立の自然史博物館が必要である、との声があがっています。東日本大震災により大事な標本が喪失してしまふなど、我が国の自然史科学研究体制の脆弱性が指摘されたことから、国立自然史博物館の設立が急務となっております。

地球環境は、過去数十年における人口爆発や急速な工業化により、気候変動、生物多様性の損失などにつ

いて、すでに限界を超えているとも言われています。こうした問題に対して、自然環境の保全・再生や災害メカニズムの解明、新たな資源の発見、生物の形態などを模倣した技術開発(バイオミメティクス)につながるなどの観点から、国立自然史博物館の設立は、持続可能な未来を切り開く力となることが期待されています。

なぜ沖縄に？

国立自然史博物館は、次の4つの理由により、沖縄が最適地であるとされています。

- 1 豊かな生物多様性
沖縄は、世界自然遺産に登録された生物多様性の豊かな地域であることから、自然史科学の調査研究を行う上で立地的に優れています。
- 2 地理的環境とネットワークの優位性
沖縄は、東アジアや東南アジアに

ため、本土で地震などの大規模災害が発生した際の、大事な自然史標本などのバックアップ機能に優れています。

4 情報発信拠点としての優位性

国立自然史博物館は、研究成果を活用した展示などにより、多くの人々に自然史に関する教育・普及を行うことが大きな役割となっていますが、毎年、多くの観光客が訪れる沖縄は、

情報発信拠点としても優位性があります。

沖縄に設置されるメリット

国立自然史博物館が沖縄に設置されることで、生物多様性の豊かさや重要性が多くの人に発信され自然環境の保全に資するとともに、子どもたちの自然史科学に対する関心を高め、学力向上につながることを期待

されます。さらに、沖縄観光の魅力を高め、県経済への波及効果などが期待されます。

日本初の国立自然史博物館を沖縄に設立・誘致する活動について、ご理解いただきますようお願いいたします！



県のイベントなども紹介！

■ 企画展(常設展)
沖縄美ら海水族館イベントホール
～令和7年3月21日(金)～

■ 企画展(巡回展)
名護博物館ロビー
8月13日(火)～28日(水)
※9月以降の巡回展情報は、SNSなどでご確認ください。

■ シンポジウム
沖縄市民会館
11月10日(日)
※詳細は、決まり次第SNSなどで発信します。

SNSなど



問い合わせ 自然保護課 電話：098-866-2243 FAX：098-866-2855

バイオミメティクスの可能性

地球上の生き物たちが、長い進化の過程で獲得したスゴ技が、我々の暮らしに役立つ技術となっているものがたくさんあります。

- ゴボウの突っ動物の毛にくっくなくな
マジックテープに！
- ハスの葉には泥がくっつかないなあ
水をはじく傘に！
- 蚊に刺されてもきづかないなあ
痛くない注射針に！

ほかにもまだまだあるんです。自然史研究が進めば、まだ知られていない生き物たちのスゴ技が解明され、誰かを救うかも！

